

畑作物の酸性障害に関する研究

第3報 小麦及びルーピンについて

出 井 嘉 光・高 橋 達 児

(九州農業試験場)

酸性火山灰土における畑作物の酸性障害の原因を明らかにするために、継続的に試験を行つてきたが、本報では小麦及びルーピンに関する成績を報告する。

(1) 小麦. 酸性土での小麦の生育に対する障害要因は主として塩基類の欠乏であり、特に Ca の欠乏が生育を決定的に支配しており、次に Mg 及び K の欠乏も影響している。pH の低下は Mg が著しく少い場合にのみ生育を顕著に障害したが、1 m. e / 100 gm の割合で Mg が施用されると、その影響は殆んど認められ

なくなつた。磷酸の不足も生育を著しく抑圧したが、pH の変化による効果の現れ方には相違がなかつた。

(2) ルーピン. ルーピンは一般に耐酸性作物或は石灰忌避作物とされているが、酸性火山灰土では生育は著しく障害された。この原因は主として Ca の不足のためであつた。Mg, K 欠乏の影響は僅少であり、pH の低下はむしろ (+) に作用していた。磷酸の欠乏はやはり生育を甚だしく減退させた。

(九州農業試験場彙報に発表の予定)